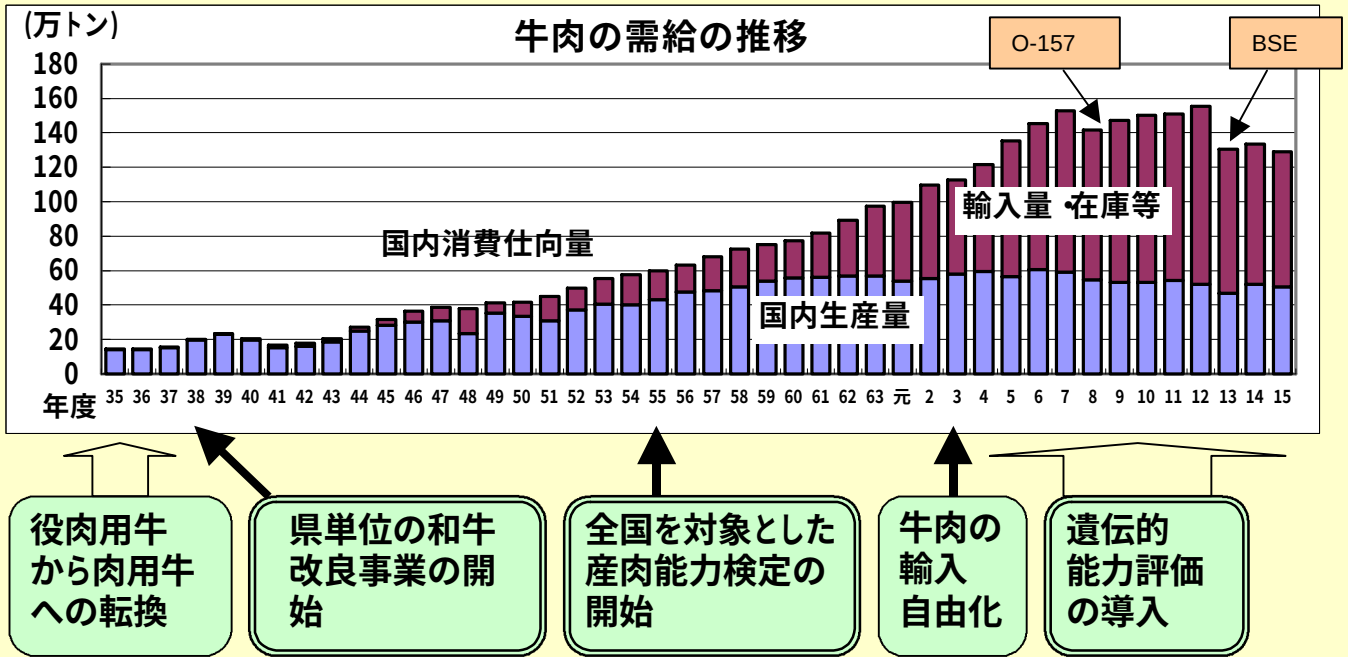


II 肉用牛

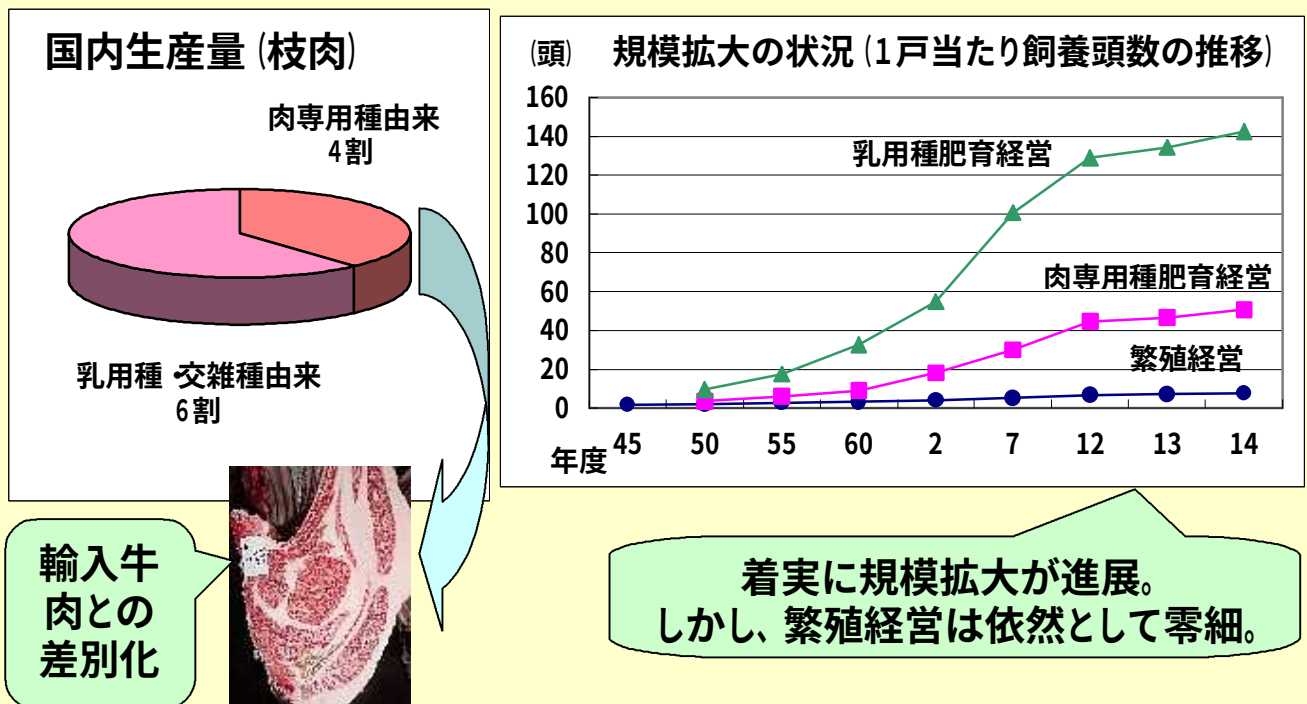
1 これまでの改良の取組と成果

(1) 肉用牛をめぐる情勢と改良の取組

肉用牛の改良は、肉専用種に重点化した取組を実施。



注: 遺伝的能力評価とは、親から子へ伝えられる平均的な遺伝的価値(育種価)を推定すること。



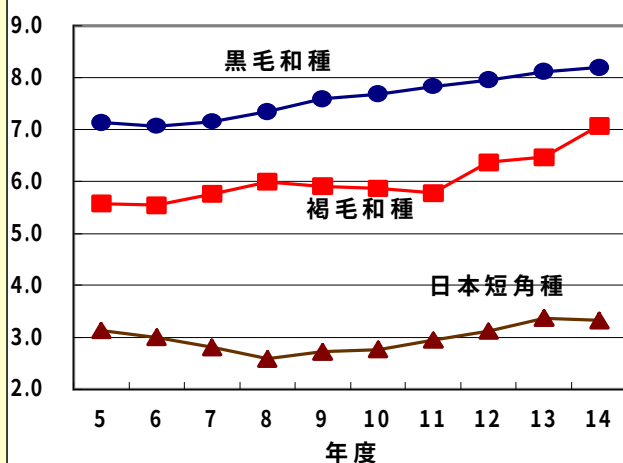
(2) 改良の成果と課題

① 種雄牛の産肉能力

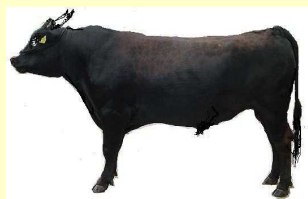
・産肉能力検定により能力向上。

・肉質に重点化してきたことから、肉質の向上は顕著。
増体性、飼料利用性の向上が課題。

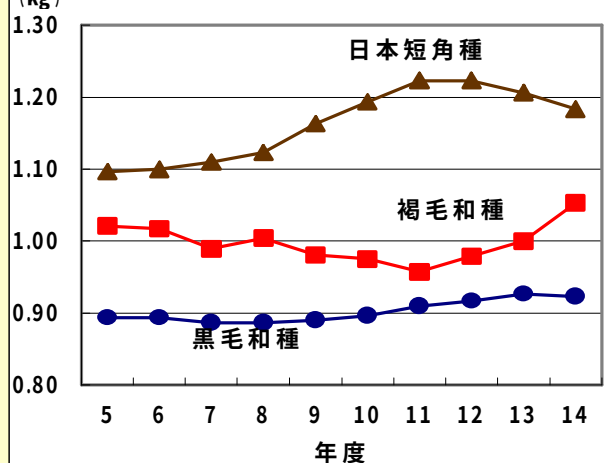
(BMS No.) 脂肪交雑 (BMS No.) の推移



大きくなるほど、さしが細かくて多く、上級とされる。最高はBMS No.12。



1日平均増体量の推移

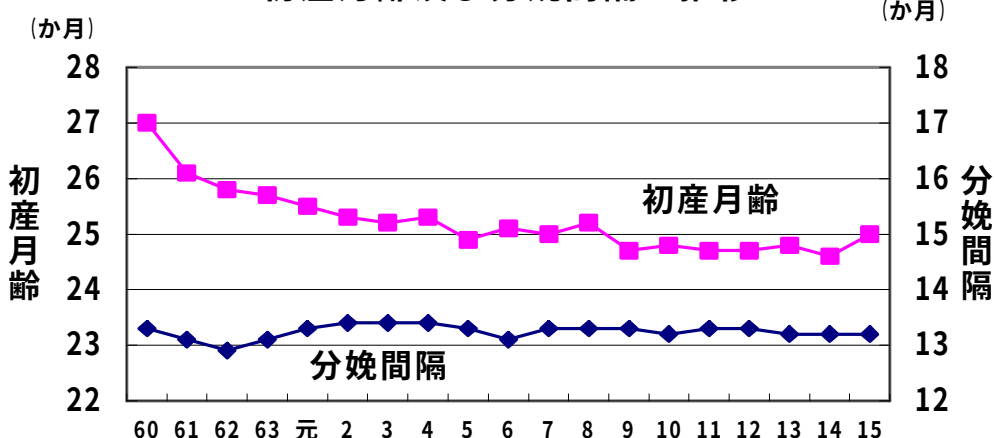


大きくなるほど、発育が良い。

② 雌牛の繁殖能力

・初産月齢は着実に向上。分娩間隔の短縮が課題。

初産月齢及び分娩間隔の推移

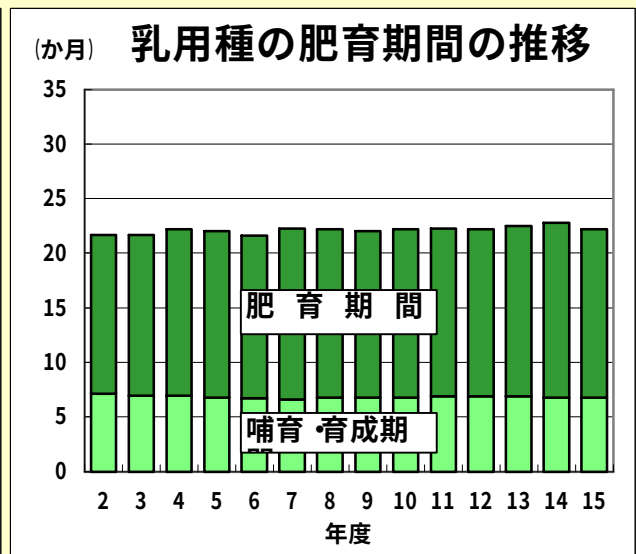
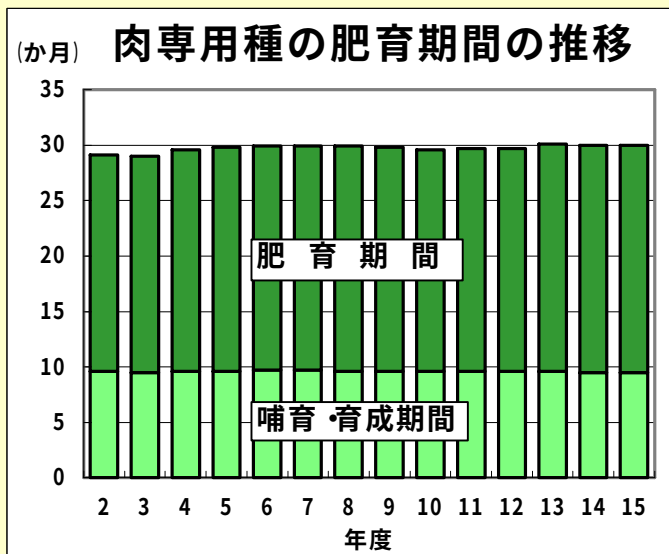


初産月齢は、過去15年間で0.5か月早期化。

分娩間隔は、一年を越える。

③ 肥育牛

肥育開始時及び終了時の月齢ともに横ばい。



過肥の肥育もと牛を導入することにより、「飼い直し」という余計な肥育期間が発生 (肉専用種)。

④ その他

特定系統への利用集中による育種資源の消失の懸念。

地方特定品種の飼養頭数の減少。

乳用後継牛不足にならない範囲での交雑種生産。

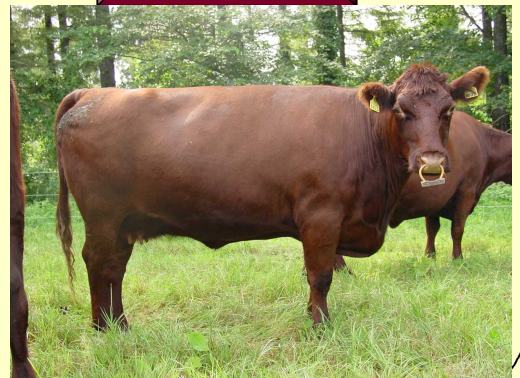
主な地方特定品種

褐毛和種



放牧適性、
増体性、
粗飼料利
用性に優
れる。

日本短角種



2 新たな目標のポイント

(1) 改良目標

①肥育牛：効率的な肥育

品種特性に応じた肉質を考慮した肥育期間の短縮。

肥育開始時月齢の早期化。

過肥の肥育もと牛減少へ一石。

去勢肥育牛の能力に関する目標数値

	品 種	肥育開始時		肥育終了時		枝肉重量 (kg)	1日平均 増体量 (kg)
		月齢 (か月)	体重 (kg)	月齢 (か月)	体重 (kg)		
現 在	黒毛和種	9.5	290	30.0	695	440	0.65
	乳用種	6.8	270	22.5	760	435	1.00
27年度	黒毛和種	8.0	240	24-26	675-725	430-460	0.90
	乳用種	6.0	270	20	800	460	1.25

注：1) 数値目標は、肥育期間短縮を目指したもの。

2) この他に、褐毛和種、日本短角種及び交雑種の目標も設定。

「肥育開始時の月齢 体重」、
「枝肉重量」の
項目を追加。

②種雄牛：産肉能力の向上

脂肪交雑に配慮しつつ、増体性、飼料利用性に重点。

種雄牛の産肉能力に関する育種価向上値目標数値

	品 種	日齢枝肉重量 (g)	脂 肪 交 雑 (BMS No.)
現 在	黒毛和種	0 (474)	0 (5.6)
	褐毛和種	0 (560)	0 (3.3)
	日本短角種	0 (570)	0 (2.1)
27年度	黒毛和種	+22.7	+1.3
	褐毛和種	+56.5	+1.1
	日本短角種	+10.5	+0.2

注：() 内は、枝肉情報として収集した値の平均。

従来からの間接検
定の目標に加え、
遺伝的能力評価
(育種価向上値) に
関する目標を新規
に設定。

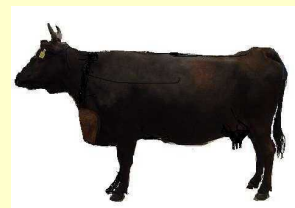
③雌牛：繁殖能力の向上

分娩間隔の短縮、初産月齢の早期化を推進。

繁殖能力に関する目標数値

	初産月齢	分娩間隔
現 在	25か月	13.2か月
27年度	24か月	12.5か月

分娩は
1年1産。



④体型

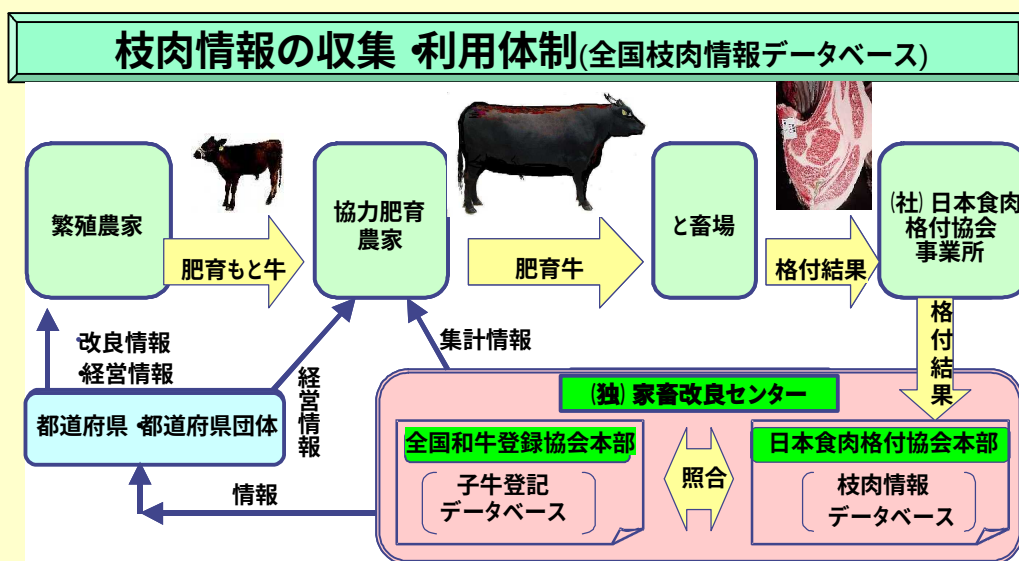
過肥や過大の回避。

(2) 改良手法

- ・ 広域的な後代検定等に基づく優良種雄牛の作出・利用。
- ・ 基本的な繁殖管理技術の励行。
- ・ 遺伝的特長を有する多様な育種資源の確保、DNA解析技術等を活用した育種手法の開発。
- ・ 遺伝的能力評価の活用への推進。

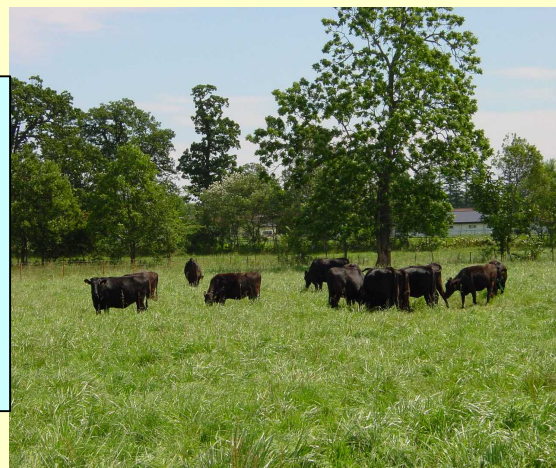
20道県及び家畜改良事業団における着実な実施。

情報収集量の増加による、全国枝肉情報データベースの充実。



(3) その他の取組

- ・ 国産稲わらの利用、放牧の活用等粗飼料利用の推進。
- ・ 遺伝的不良形質の発現抑制のための交配指導等の推進。
- ・ 削蹄など適切な飼養管理の励行。



(4) 増殖目標

	総頭数	うち肉専用種	うち乳用種
現在(15年度)	279万頭	171万頭	108万頭
目標(27年度)	348万頭	211万頭	137万頭

増殖目標達成に向けて

優良な繁殖雌牛の増頭。
乳用後継牛の生産に支障をきたさない範囲内で、交雑種生産及び受精卵移植を活用した肉専用種の増頭の推進。